fishing

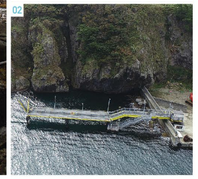
飛島は絶好の釣り場です。

飛島の釣り

飛島には、全国から多くの太公望が訪れ、御積島周辺と烏帽子群島、二俣島などの岩場や船釣りで大型のマダイ、クロダイ、メジナなどを釣り上げています。防波堤や港内でもアジ、アイナメ、ウミタナゴなどが釣れます。

磯釣りで釣れるマダイ

01「烏帽子群島」



02 勝浦地区に設置されている釣り桟橋では、転落防止のための安全柵が設置されており、大人から子どもまで手軽に安全に海釣りが楽しめます。主にアジ・メバル・イシダイなどが釣れます。

飛島で釣れる魚

1~2月	3~4月	5~6月	7~8月	9~10月	11月~
メダイ・マリイカ		スルメイカ		アオリイカ	
タラ	メバル				メバル
	カレイ	アジ		アジ	
アイナメ・メジナ					
タナゴ					
マダイ					
クロダイ					
	イシダイ				
	コブダイ				

beach

飛島の海岸には魅力がいっぱい。

飛島の海岸

小松浜海水浴場は、自然の入り江で波も穏やか。透明な海ときれいな砂浜は、安心して遊べる人気のスポットです。海岸ではローソク岩や貝殻でできた浜（シェルビーチ）、遠浅の海食台などの景観が広がります。

小松浜海水浴場

01「遊覧船」

02「ローソク岩」

03「マンモス岩」

島には、遊覧船として運航する船があります。御積島を巡る40分コース、飛島を一周する1時間半コースがあり、御積島や烏帽子群島の島を間近に見ることができます。遊覧船は、旅館、民宿で紹介してくれます。海岸遊歩道ではローソク岩やマンモス岩などのおもしろい風景を楽しむことができます。また、ゴトロ浜の崖では海底火山がくりかえし噴火をしたときの地層が見られ、島の周りには海が削って平らになった海食台が広がっています。飛島の海食台は日本でも有数の広さをほこるジオパークらしい貴重な景観です。

04「スキューバダイビング」

05「サンゴ」勝浦港南東部に突き出る館岩周辺には、暖流の影響で、日本海側に生息する「ムツサンゴ」が大群落を形成し、東北では珍しい「オノミチキサンゴ」が見られます。ダイビングをするには、事前に資材の準備、運搬、船の手配が必要です。県内のダイビングショップにお問い合わせください。御積島周辺は、サザエやアワビの漁場となっているため配慮が必要です。

birds

飛島は、渡り鳥の中継地です。

飛島の野鳥

飛島は、渡り鳥の中継地（休息地）としても有名です。春と秋には、中央アジアやヨーロッパ方面から珍鳥・迷鳥がやってきます。普段は木の上や藪などにいる野鳥が羽根を休める姿を比較的簡単に観察することができます。

ヤツガシラ（3月下旬～5月上旬）

キビタキ（4月下旬～5月上旬）

シラガホオジロ（10月上中旬）

ヤマヒバリ（10月下旬～11月中旬）

コホオアカ（4月下旬～5月中旬、9月下旬～11月上旬）

カラスバト（3月下旬～11月中旬）

ハヤブサ（通年）

01

02

01・02「ウミネコ」飛島はウミネコの繁殖地として、国の天然記念物に指定されています。4月から繁殖に入り、百合島、御積島と烏帽子群島、寺島で集団で営巣します。名前の由来でもあるネコのような「ミャーオ、ミャーオ」とにぎやかな鳴き声が島内に響き渡ります。7月には幼鳥が巣立ち、8月には飛島を離れていきます。

wildflowers

飛島は、植物の交差点です。

飛島の野草

飛島の名をつけた「トビシマカンゾウ」は、高山植物の「ニッコウキスゲ」が海浜環境に適応したものと言われ、初夏に大型の鮮やかな黄色い花をつけます。海岸近くや日当たりのよい場所に咲き、酒田市の花に指定されています。

トビシマカンゾウ（6～7月）

キクザキイチゲ（3～5月）

カワラナデシコ（7～10月）

クルマユリ（7～8月上旬）

オオバナノミミナグサ（5～6月）

ハマエンドウ（4～7月）

ヤブミョウガ（8～9月）

01

02

荒崎に続く遊歩道をおりると西海岸に突き出た岩場に出ます。海岸沿いには、初夏のスカシユリに始まり、トビシマカンゾウ、オニユリなどのユリ科の植物群落が次々と花を咲かせ、烏帽子群島と御積島、西海岸を借景に美しい景観を作り出します。

01荒崎顎部の植物群落…スカシユリの群落　02トビシマカンゾウの群落

view

飛島の景観にほっとひと息。

飛島の景観

海岸線に広がる日本海や鳥海山の風景、高台の展望台から望む周辺の島々の景観は、時がたつのを忘れさせてくれます。御積島の方向に沈む夕日、鳥海山の方向から昇る朝日の美しさに心が洗われます。

館岩から飛島を望む

巨木の森　タブノキ

朝焼けの鳥海山

南灯台と御積島に沈む夕日

夏の荒崎

渚の鐘

オニユリと西海岸

飛島の見どころ

飛島は、酒田港より北西に約39kmの距離にあり、山形県の最北かつ最西に位置します。周囲を暖流（対馬海流）が流れており、年平均気温は12度以上と暖かく、積雪もそれほどありません。この海流によりもたらされる温暖な気候により、北と南の動植物が混在しています。

飛島は、海底から隆起した陸地が波によって削られ、ほぼ扁平な海食台地が形成されたものと考えられており、その台地は、タブノキやヒサカキなどの常緑広葉樹を始め、ムベ、ヤブミョウガ等暖地系植物とオオイタドリ、オオバナノミミナグサ等の寒地系植物が混生しています。また、海岸近くでは、オニユリや、固有種であるトビシマカンゾウなどユリ科の花が、初夏に黄色やオレンジの群落をつくります。

海では、スルメイカやトビウオなどの暖流に乗った魚のほか、タラやメバル、大型のタイ類やワラサなど豊かな恵みをもたらします。

飛島は渡り鳥の中継地で、春と秋にはたくさんの野鳥が羽を休めて行きます。普段は観察しづらい種類の鳥を比較的簡単に観察することができ、本来は日本で見ることができない大陸の野鳥、いわゆる珍鳥・迷鳥もたびたび観察されています。

島内には、縄文時代前期からの遺跡が存在し、江戸時代には大阪から北海道を行き来する北前船の風待ち港、避難港として重要な位置を占めていました。また、昭和38年には、鳥海国定公園の一部に指定され、平成28年9月に日本ジオパークに認定されました。

▶ 飛島の大地

Geopark

飛島は日本海を南北に連なる海底山脈の頂上にあたります。海底火山から吹き出した噴出物が海底に積み重なり、盛りあがりながら波や風雨に削られて現在の姿となりました。飛島のいたるところで大地と海の営みによってできた地形や風景をみることができます。

南と北の動植物が同居する特徴的な生態系、海を生業とする人々によって培われた漁村の生活や文化も見どころです。

「大地・自然・文化」の多様性を意識しながら飛島を散策してみてはいかがでしょう。きっと新しい発見に出会えるはずです。

▶ 歴史

History

島内には、約6千年から4千年前の縄文遺跡が3つあります。北陸から北東北にかけて出土する種類の土器が発掘されており、古くから海を介した交流があったことがうかがえます。

島は平安時代から江戸時代にかけて、安部氏、仁賀保氏、最上氏、酒井氏等の所領となり鶴鋪島（つるじのしま）、潮島（うしおじま）、豊島（とよしま）、とど島などと呼ばれ、今から約400年前の江戸時代に現在の飛島という名前になりました。